

小児科

1. 掲載論文

- 1) 腸瘻より経管栄養を6年間継続後に発症した巨赤芽球性貧血の1例
日本小児血液学会誌 21 : 238-241, 2007
丹代 諭、今野友貴、山本達也、高橋義博、伊藤悦郎
- 2) ニューモシスチス肺炎で発症し、HAART 開始後、免疫再構築症候群によるサイトメガロウイルス網膜炎・肝炎をきたした AIDS の1例
平成 18 年度東北ブロック エイズ/HIV 感染症臨床カンファレンス集、p 14-17、2007 年 3 月
高橋義博、林 昌功、佐藤章子

2. 臨床研究発表会

- 1) 秋田県小児期発症膠原病疾患二次調査（第1報）－2003～2006年の秋田県内 JIA 治療例の検討－

第4回秋田小児膠原病研究会 平成 19 年 1 月 27 日（秋田市）
高橋義博

2005 年 7～8 月に、県内の小児科標榜医療機関(病院・診療所)75 施設と膠原病患者児の受診が予想される病院診療科 12 施設（整形外科・内科・皮膚科・小児外科）、計 87 施設を対象とした第一次実態調査の結果、2000 年 1 月～2004 年 12 月では、18 歳未満発症の新規診断例・治療例について、68 施設から回答が得られ（回収率 78%）、症例ありは 11/68 施設、16%、（調査対象施設を基にすると 11/87 施設、12.6%）で、計 40 例(男児 16 例、女児 24 例)が報告された（15 歳未満例は 34 例）。疾患別では、多い順から JIA 25 例（全身型 10 例、多関節型 7 例、少関節型 8 例）、SLE 5 例、その他の関節炎 5 例、DM/PM 2 例、シェグレン症候群、MCTD、ベーチェット病各 1 例であった。

今回は、第一次調査で一番症例が多く報告された若年性特発性関節炎(JIA)について、JIA 症例を報告して頂いた施設を中心に、秋田県内 2003 年 1 月～2006 年 8 月の治療例・新規診断治療例の JIA 臨床像について、第二次調査を行なったので報告する。

結果：10 施設から計 20 例（男児 8 例、女児 12 例）が報告された（大館市立 6、中通り 4、秋田市立・さけみ小児科各 2、秋田大・秋田赤十字・雄勝・由利・平鹿・佐藤病院各 1）。

【年齢】平均 4.3 歳（M 4.4 歳、F 4.2 歳）、全身型平均 7.7 歳（M 9.3 歳、F 6.8 歳）、多関節型平均 4.3 歳（M 2.5 歳、F 6.0 歳）、少関節型平均 7.0 歳（M 7.0 歳、F 7.0 歳）であった。

【病型】発症時、全身型 9 例（M3・F6）、多関節型 4 例（M2・F2）、少関節型 7 例（M3・F4）で、最終観察時には、全身型 6 例（M2・F4、発症時全身型から男女各 1 例が多関節型へ移行、女児 1 例が寛解）、多関節型 7 例（M3・F4、発症時全身型から男女各 1 例が多関節型へ、女児 1 例が少関節型から多関節型へ移行）、少関節型 4 例（M2・F2、男女各 1 例が寛解、女児 1 例が多関節型へ移行）、寛解 3 例（全身型の女児 1 例と少関節型男女各 1 例、）であった。

【治療】発症から 6 ヶ月以内では、ステロイド剤のみで治療開始された 1 例を除き、残り 19 例は NSAIDs を中心に、ステロイド剤併用、免疫抑制剤併用が各 9 例と多く、抗リウマチ剤併用は 1 例であった。現在治療継続中の 17 例では、NSAIDs 治療が多く 14 例 82%であったが、NSAIDs 単独は 3 例のみで、ステロイド剤併用が 6 例、免疫抑制剤 9 例の他、最近成人の関節

リウマチで脚光を浴びている生物製剤が2例で併用されていた。なお免疫抑制剤では、MTX使用が計10例と多くみられ、JIA治療の基本になっていると思われた。

2) ニューモシスチス肺炎で発症、HAART開始後、免疫再構築症候群によるサイトメガロウイルス網膜炎・肝炎をきたしたAIDSの1例

平成18年度東北ブロックエイズ/HIV感染症臨床カンファランス 平成19年2月18日 (仙台市)

大館市立総合病院小児科 ○高橋義博、第1内科 林 昌功、眼科 佐藤章子

3) 関節腫脹で発見された高脂血症の女児例

第145回日本小児科学会青森地方会 平成19年4月7日 (弘前市)

大館市立総合病院小児科 丹代 諭、今野友貴、山本達也、高橋義博、弘前大学糖尿代謝内科 玉澤直樹

<緒言>原因不明の関節炎を精査時に、高度の高脂血症が発見された13歳女児を経験したので報告する。

<症例>H19年1月に4~5日持続する発熱を認めた。約2週間後より右膝の疼痛、腫脹を訴え近医整形外科を受診し、赤沈の高値、CRP上昇を指摘された。17日よりステロイド内服加療されたが改善しないため、25日当院を紹介された。血液検査でトリグリセリド 3,307 mg/dL、総コレステロール 729 mg/dL と著明な高値であり膝炎発症も危惧されたため入院した。関節炎は次第に軽快したが、高脂血症のコントロールに難渋した。現在食事療法、内服療法で改善傾向である。

<考察>抗マイコプラズマ抗体が低下してきており、関節炎の原因はマイコプラズマ感染と思われた。高脂血症に関しては2年前も軽度の上昇を指摘されていることから、家族性、感染症、自己抗体産生、ステロイド内服の影響を考慮し精査中である。

4) Leigh脳症の2例

第91回日本小児科学会秋田地方会 平成19年6月23日 (秋田市)

弘前大学小児科 今野友貴、藤田浩史小児科 山本達也、丹代 諭、高橋義博、弘前大学小児科 今野友貴、藤田浩史

Leigh脳症は発達遅滞、筋力低下を主症状として多彩な症状を伴い、大脳基底核の左右対称性病変を特徴とする稀な変性疾患ある。今回我々が経験した2症例について、文献的考察を交えて報告する。

〔症例1〕3歳男児。幼児期より低身長、軽度の発達遅滞が認められていた。2歳半頃から、歩行時のふらつき、眼振、振戦が認められ、当科受診した。

〔症例2〕8ヵ月男児。両上肢、口唇の不随意運動が突然出現し、坐位保持不能となり当科受診した。

2症例ともに血中および髄液中乳酸、ピルビン酸の高値が認められた。頭部MRI上、両側基底核にT2/FLAIR高信号の病変が認められた。他疾患を鑑別のうえ、臨床経過、検査所見からLeigh脳症と診断した。遺伝子検査は施行中である。

Leigh脳症はミトコンドリアにおけるエネルギー代謝異常が原因として考えられているが、病因の特定が困難な症例が多く、明確な治療法は確立していない。現在ビタミンB1による治療を行っているが、今後の方針としてさらなる治療を検討中である。

- 5) C型肝炎インターフェロン治療を控え、薬剤耐性検査を参考にH A A R T変更した一例
第4回秋田県H I V治療研究会 平成19年9月14日 (秋田市)
大館市立総合病院小児科 高橋義博、同 薬剤科服薬相談室 金沢久男
- 6) 小児喘息増悪因子としての上・下気道炎症の疫学調査
第44回日本小児アレルギー学会 平成19年12月8日 (名古屋市)
大館市立総合病院小児科 高橋義博
気道疾患対策会議世話人(小児) 赤坂 徹、岡田昌彦、岸 幹二、黒沼忠由樹、
森川利夫

目的：ウイルスによる呼吸器感染は、喘息症状の増悪因子と考えられているが、「気道疾患対策会議(代表：岩手医科大学第三内科井上洋西)」では、2004、2005年冬季の気道感染により小児例で喘息症状の増悪が起きるか、その増悪の関係因子は何か、どのような薬剤がそれを抑制しうるかをテーマに、疫学調査を実施した。

対象・方法：04年11月～05年4月、05年12月～06年5月に、気道疾患対策会議所属の東北6県小児科医療機関で、継続的喘息治療中に、上・下気道炎症状で受診した小児喘息患児162例(男100、女62例)について、喘息病型・重症度・長期管理薬・発作治療薬と気道炎症状・鼻汁検査・インフルエンザ迅速検査・臨床経過を調査した。

結果：重症6、中等症61、軽症93例、アトピー型127例で、気道感染時、インフルエンザ罹患75例、発熱128例、鼻汁中好酸球36/59例陽性であった。発熱群は、発熱なし群に比較し喘息症状が強く、ロイコトリエン受容体拮抗薬(抗LT薬)内服群で喘息症状が軽く喘息症状遷延が少なかった。なお気道感染時の抗LT薬の追加による上・下気道・喘息症状軽減効果は明らかでなかった。

考察：上気道(鼻)と下気道(気管支)はリンクし、それぞれの疾患が発症した場合影響しあうという、「one airway one disease」という考えが、提唱されている。今回の調査では、気道感染時の上・下気道炎症状の中で、喘息症状の関係が推測され、その際抗LT薬が、喘息症状増悪を抑制する可能性が示唆された。

3. 講演

- 1) 中学生への性教育講演「性といのち(生)を考えよう」を行ってみて

—小児科医として何を伝えたいか・訴えたいか—

秋田県医師会 性教育に関する研修会 平成19年2月10日(秋田市)

○高橋義博

- 2) 「卒業・進級する中学生のあなたへ、今知ってほしいこと」

—生と性 いのちの大切さ、幸せな人生のために—

これからの性との付き合い」 大人になる前の性とエイズについて

平成18年度「東北エイズ診療ネット」HIV診療医師情報網支援事業(エイズ予防財団委託事業)

研修会(エイズ予防財団委託事業) 平成19年3月10日(大館市)

○高橋義博

- 3) 「性」と「いのち(生)」を考えよう

秋田県教育庁性教育派遣講座

大館市立第二中学校 3 年生性教育講座 平成 19 年 9 月 20 日 (大館市)

○高橋義博

4) 最近話題の感染症

平成 19 年度大館北秋田教育研究会 平成 19 年 10 月 1 日 (大館市)

○丹代 諭

5) 秋田県における HIV/AIDS 診療・ケアの現状と課題

平成 19 年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 岡 信一研究班

「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」東北ブロック連携会議 平成 19 年 10 月

6 日 (秋田市)

○高橋義博

6) 秋田県の HIV/AIDS の現状

平成 19 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究推進事業 山中京子研究班研究発表会

「HIV 感染者に対するカウンセリング体制の現状と今後の課題」 平成 19 年 11 月 4

日 (秋田市)

○高橋義博

7) 「性」と「いのち (生)」を考えよう

秋田県教育庁 性教育派遣講座 秋田県立比内養護高等部性教育講座 平成 19 年 11

月 5 (大館市)

○高橋義博

8) 秋田県のエイズ治療体制と保健所活動への提言—全県の保健所における HIV 迅速検査導入に向けて—

平成 19 年度 秋田県保健所研修 平成 19 年 11 月 13 日 (秋田市)

○高橋義博